



## 随筆

局まで持参したものである。その時は小切手は絶対だめだが、私の所長時代にある係員が小切手でとってしまった。ところがその小切手は不渡りのものであったのであわてたことがある。また私が別の淀橋出張所長時代に集金員が金を使い込んでしまった。それを集金主任が発見したが、その主任はどこに使ったかまで調べたら「女」とまで白状させたことがある。

### 11. 東京都水道局の人事

戦前、都水道局で給水栓数 100 万栓であった頃は局長 1 人に課長は庶務課長、会計課長、営業課長、給水課長、浄水課長、拡張課長、下水課長、水源林事務所、小河内貯水池建設所(二課)、利根川水道建設所(二課)だけで、局員約 2,000 名といわれていた。

現在は 280 万栓位だろうが、人事異動のとき局長クラスと称する局長、次長、技監本部長の 5 名、部長クラス 32 名、課長クラスに至っては大変な数のようで、全職員数 7,800 名といわれている。

### 12. 水道界 80 翁 3 人 (明治 27 年生れ)

No. 1、荏原製作所会長 酒井億尋さん。

日本のポンプ界の神様井口在屋先生のあとをついだのが畠山一成先生、そのまたあとを継いだのが酒井さんで、田中角栄さんと同じ新潟県人、早稲田大学商科卒業、直ちに荏原へ、今はポンプ界のトップにある大会社である。

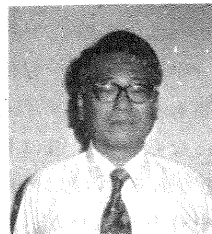
No. 2、金門商会社長 小野田忠さん。

小野田さんは福島県人、大正 10 年東北大理学部卒、同 15 年文部省在外研究生として欧州へ、同年理学博士となる。奥さんは金門商会創立者十文字大元さんの長女で早くから金門との関係をもった。申すまでもなく金門商会は日本に於ける水道メーターの元祖である。

No. 3、平野井雷治

東京本郷の郁文館中学卒、明治大学商科中退、沖縄、台湾の製糖会社に 4 年、大正 14 年から昭和 20 年まで東京都水道局で水道メーターの仕事をし、現在細々とメーター修繕の零細会社を経営している。

## 私の仮説



千葉県水道局技術部長

藤城 弘之

治水事業にたずさわっていると、雨とか洪水を統計的に取扱う機会が多くなる。

私も長い間治水を担当していたので確率雨量確率洪水量等の術語になじんできた。50 年確率雨量というと 50 年間に 1 回程度しか降らないと推測される程の大雨のことである。超過確率 50 分の 1 の降雨ともいう。

10 年近く前のこと、奇妙なことに気付いた。「50 年確率の大雨があった年の翌年に再び同

程度の大雨が降る」現象に出会ったのである。

「50 分の 1 の確率に続いて 50 分の 1 の確率が現われる確率」は 2500 分の 1、いいかえると 2500 年に 1 回位でよさそうなもの(?)。従って実例は稀であると思っていたが、どうもそうではないらしい、存外多いように思ったのである。

本年 7 月に新潟地裁で天災か人災かの議論を含めて判決があった新潟県加治川水害は、

## Essay



昭和41年、42年と連続して起ったもので、兩年とも50年確率程度（正確な数字には自信がないが）の降雨が原因であった。

100円銀貨を投げ上げて表が出るか裏が出るか、その確率は2分の1である。10回連続して表がでたとしても、11回目に表がでる確率は2分の1である。そろそろ裏が出そうなものであるが確率としては2分の1、われわれの素朴な期待感とは一致しないようだ。この理屈は、よく考えてみると分からないこともない。しかし50分の1の確率の事象が連続して起ることが間々あるとなると、残念ながら分かりにくいのである。

昭和41年、航空機事故による大惨事が続発し、その年の日本の10大ニュースのトップとなったことがある。当時、珍しい事故が連続して起った極めて稀なケースとして忘れることができなかつた。私はこのとき「確率的に稀な事故」とも考え、また「極めて珍しい事故は一度起れば二度目も起る」とも考えた。むしろ、後者を選んで「一度あることは二度ある」とすると世の中の大事件も個人的な珍現象も説明しやすいように思えた。そこで、これを「私の仮説」として検定してみようと思いたつた。

昭和43年、山形県河川課に勤務していた頃のことである。42才、既に中年であったが休日には必ず蔵王スキー場に駆けつけ、子供達と雪国のムードを楽しんでいた。ゴルフでは何年頑張ってもビギナーの域を出ない技量であったためか、小さなボールを相手に四苦八苦しているよりは、雪質の良い蔵王の雪の中に転倒する方がよほど健康的であると感じていた。

3月23日夕刻、私はグレンデの一隅にうづくまっていた。両足骨折と直感したが、痛くはなかつた。ただちにスノーボードで運ばれ、診療所で応急手当をうけた。両足の真白いギブスが象の足のように見えた。この間僅か3時間、蔵王スキー場の急救体制には今でも感

謝している。

「先生、両足骨折は珍しいでしょうね」

「そうですね。毎シーズンここで手当をうける人は1,000人位。貴方のような大ケガは今年2人目ですよ。蔵王に来る人は100万人位ですから、50万人に1人というところですか」

このとき、50万分の1の確率を引き当ててしまったことを知つた。

翌年1月、山形市内のスキー場で、小学校6年生の長男が右足を骨折。わが家には2年連続の事故であった。「一度あることは二度ある」ようである。余談となるが50万分の1の確率の体験は私に自信をつけさせた。宝くじは当るものと思い始めたのはこの頃。

私事ばかりで恐縮であるが、もう一つ。

昭和40年2月、松本県庁から奈良県河川課に転出した。その秋、奈良県史上初の激甚災害があり、大和平野は各所で水浸しになった。ここで堤防、道路等の災害復旧が私の初仕事となった。2年後の42年5月、山形県庁に転勤、そこでも未曾有といわれる大水害を経験した。羽越水害である。当時、「君は災害男だね」とよく冷かされたものである。災害復旧に要する予算は奈良の場合約30億円、山形の場合約60億円であった。相手として不足のない大仕事ではあるが、「災害男」の異名は有難くなかつた。雨男の方がまだ愛嬌がある。ここでも「一度あることは二度ある」ことを体験していた。

48年8月3日のことである。栃木県日光地方に局地的雷雨が襲い、日光カントリークラブで大木の下に避難していたゴルファー3人とキャディー1人に雷が直撃し、2人はショック死、2人重体という事件があつた。当時の年間ゴルフ場入場者は2,500万人を超えていわれていたが、ゴルフ場での落雷事故はこの時が初めてである。3日後の8月6日、大阪府枚方市のパブリックゴルフコースと、京都府丹波町の某カントリークラブに落雷、死傷者がでた。不幸な事故であつたが、「私の



## 随筆

仮説」にピッタリである。

順序は逆になるが昭和46年秋、東京都のゼロメートル地帯で水門、排水ポンプ等の管理ミスが連続し、700世帯以上の民家が水浸しになった。東京湾が異常潮位でふくれ上った時の満潮時に起きた珍しいミスである。防災施設の管理は、まかり間違うと大きな人災をひき起すので、管理にあたる者にとって日々が真剣勝負のようなもの。私自身も防災に関係する者として、管理ミスは起らないもの、少くも2回続くことはあり得ないと信じていた。それが9月5日、7日とダブルミスである。「私の仮説」は正しいのではないかと思うようになった。

49年9月、日本初の原子力船「むつ」に放射線漏れ事故が発見された。このため「むつ」は母港入港は勿論のこと、沿岸での仮停泊さえ拒否され、50日間の洋上漂流を続けることになった。後日、洋上漂流事件は再現しなかったが、各地の原子力発電所で放射線漏れに関連したトラブルがあったようだ。

こうして並べたてると、かなりの事例がありそうである。私の仮説を素直に納得させる例も多い。

次に運の良い話をひとつ。

毎夏、甲子園で全国の野球ファンをわかす

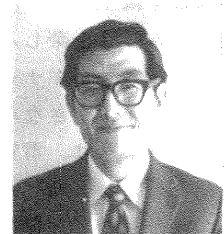
高校野球には、時の幸運児が生まれるという。最近では、千葉県習志野高校の石井監督が「ツキ男」として新聞紙上に紹介された。修練の結果にプラスアルファが加味されて、甲子園行きのキップを手にしたという。石井監督は42年、習志野高校が全国優勝をした時の投手であり、47年監督に就任して、その年に甲子園に出場した。今年春の大会に続いて夏も出場することになった。この場合にも、今年の連続出場と、47年までの2回出場と、両者共に「一度あることは二度ある」とする仮説に矛盾しないと思っている。少しばかり我田引水のきらいはあるが。

マージャンにはツキがある。本人の努力の如何にかかわらず、思いがけない幸運が一晩中ついてまわることも多い。このツキと「私の仮説」との関係を調べてみたが、どうも全く無関係と行ってよさそうである。私流に解釈すると「マージャンのツキのような日常茶飯の事柄は問題外、極めて珍しい事例についてのみ成立しうるのである」ということになる。

こうして「私の仮説」は私の大事な発見(?)の一つとして育ってきた。今ではテレビを見、新聞を読み、ニュースを聞き、情報を収集しながらその当否を検定することを楽しみにもし、趣味にもしている。

## “水商売”で思うこと

静岡県企業局長  
能勢邦之



今年の4月から、営業中の工業用水道6事業、上水道3事業、建設中が計画段階の上水道4事業をかかえている静岡県の公営企業管理者になり、久しぶりに“水商売”の仲間に

入れてもらうことになった。

久しぶりというのは、ひと昔よりもっと前のことになるが、自治省で、初めて担当した仕事は、水に関係した仕事であったからで、